

癌化学療法輸液約束処方 非ホジキンリンパ腫

癌種 再発・難治性非ホジキンリンパ腫
 レジメン名 NHL19 エプコリタマブ

薬品名 (商品名)	一般名	略号	標準投与量	投与経路	投与日	1クール期間
エプキンリ	エプコリタマブ		1回目0.16mg	皮下注	1-3クール目：DAY1.8.15.22	28日間
			2回目0.8mg		4-9クール目：DAY1.15	
			3回目以降48mg		10クール目以降：DAY1	

皮下注

エプキンリ _____ mg / 皮下注

<備考>

- ① 2レジメン以上の前治療歴を有する再発または難治性の非ホジキンリンパ腫に対して使用
- ② CRS対策 Day1 (投与30分前までに内服) : デカドロン 16mg、レスタミン 50mg、カロナール 600mg Day2-4 : デカドロン 16mg
 1クール目 : 必須 2クール目以降 (前クールでGrade2以上のCRSがあった場合) Day1-4 : デカドロン 16mg
 Grade2以上のCRSが現れなくなるまで
 症状発現時→○トシリズマブ (アクテムラ) 8mg/kg (最大800mg) 投与。8時間以上経過後に再投与を考慮 (24時間以内に最大2回投与)
 ○デカドロン16mg 12時間おきに投与
- ③ ICANS対策 症状発現時 ステロイド先行 デカドロン16mg 6時間おきに投与 (内服または静注)
 効果がない場合はメチルプレドニゾン1000mg/日 (Grade3以上)

参考：エプキンリ副作用マネジメントブック2023年11月版

○休薬 Gr3以上のCRS、ICANS、Gr3以上の血小板減少、Gr4以上の好中球減少

○投与間隔 0.16mgと0.8mgの投与間隔が8日を超えた場合、0.8mgと48mgの投与間隔が14日を超えた場合、48mgの投与間隔が6週間を超えた場
 →1クール目の投与方法に戻して再び投与を再開すること。その後は、予定されていた次の投与サイクル (投与を延期したサイクルの次の投与
 サイクル) の1日目から投与再開すること。

R6.2.14作成